|  |  |
| --- | --- |
| 受付番号 |  |
| ※記載不要 |

平成29年　　月　　日

（様式５）

企画提案書

* 企画提案書の各記入欄の大きさは変更してよい。ただし、企画提案書のページ数は11～20ページ以内とすること
* 各記入欄の記入時の補足情報として記載している赤字「※」は削除した上で、提案内容を記載すること
* 企業名、製品名及びそれらを連想させる名称は記載しないこと

|  |  |
| --- | --- |
| 提案事業名 |  |
| 希望実証実験場所 | □東京都庁第一本庁舎２階□東京都庁第一本庁舎南側展望室（詳細は都と協議の上決定） |
| 希望実施時期 | □１回目　平成　年　月　日　～　月　日□２回目　平成　年　月　日　～　月　日□３回目　平成　年　月　日　～　月　日（詳細は都と協議の上決定） |
| 実施に当たり都側に求める体制 | ※実証開始前の事前調整、実証期間中及び終了後の検証時等に都に求める事項含めて明記すること |
| ロボットの外観・デザインロボット及び実証実験に使用する機器の構成、寸法・重量・使用電力 |
| ※ロボットの外観・デザインがわかる写真を添付し、外観・デザインの特徴及び優位性があれば明記すること※ロボット及び実証実験に使用する機器（ディスプレイ等）の構成、寸法（縦・横・高さ）、重量、使用電力を明記すること |

|  |
| --- |
| １．技術力 |
| 【検証項目１】来庁者に対して、多言語（日英必須、他言語任意）での案内を行い、現在の技術における有効性と課題を検証 |
| ※検証項目１を踏まえ、今回実証実験に使用するロボットの現在の技術の有効性と課題を検証する実験内容を具体的に提案すること |
| 今回の実証実験における評価指標及び評価方法 | ※検証項目１の実験結果を検証する際の評価指標（定量評価、定性評価）及び評価方法を具体的に明記すること※実験時にロボット側で自動取得できるデータ（各言語の認識率、音声→テキスト変換の精度等）以外に、アンケート・ヒアリング等を利用者へ実施する場合は、調査項目・方法も具体的に明記すること |

|  |  |
| --- | --- |
| 機能要件 | 今回実証実験する内容　及び　技術レベル等の優位性 |
| ①自然言語を介した双方向のコミュニケーションができる | ※利用者の入力に応じた情報提示が可能か、入力時に子供・高齢者・外国人など誰でも簡単に要望を伝えることができる工夫の有無、出力される提示情報のわかりやすさの工夫の有無等を明記すること |
| ②施設や観光情報の案内ができる | 今回の実証実験で案内する情報（1つ以上必須、複数選択可） |
| □都庁舎の案内　　　　　　　　□東京の観光案内 |
| ※案内の対象や提供する情報の範囲、案内情報がコンテクスト(\*1)によって応答が変化するか等を明記すること(\*1)コンテクストの例：それまでの対話内容、時間・日付・曜日、天候など |
| ③多言語対応ができる | ※今回実験する言語及び各言語の精度等技術レベルの自社評価、各言語が対応する案内の対象範囲（機能要件②との関連付け）、各言語の対応レベル（定型パターンのみ、表現の揺らぎ等にも対応可能等）を明記すること |
| ④ジェスチャによるコミュニケーションができる　＜任意＞ | ※利用者の顔・声のする方向を向く、頭や手を動かす等のジェスチャによるコミュニケーションの内容を明記すること |
| ⑤移動して物理的に案内ができる　＜任意＞ | ※物理的に動いて道案内をする等の具体的にできることを明記すること |

|  |
| --- |
| 【検証項目２】ロボットとの会話を通じて、問合せ内容等の取得可能なデータを蓄積・分析し、質問対応及び案内対応のサービスレベル向上の可能性と課題を検証 |
| ※検証項目２を踏まえ、データ蓄積・分析し、分析結果をロボットのサービスレベル向上に活用する可能性と課題を検証する実験内容を具体的に提案すること |
| 今回の実証実験における評価指標及び評価方法 | ※検証項目２の実験結果を検証する際の評価指標（定量評価、定性評価）及び評価方法を具体的に明記すること※実験時にロボット側で自動取得できるデータ（検証項目２①記載のデータ）以外に、アンケート・ヒアリング等を利用者へ実施する場合は、調査項目・方法も具体的に明記すること |

|  |  |
| --- | --- |
| 機能要件 | 今回実証実験する内容　及び　技術レベル等の優位性 |
| ①コミュニケーションしたデータを蓄積できる | ※データ蓄積方法、取得するデータと取得目的、個人情報取得時の匿名加工方法等を明記すること |
| ②蓄積したデータを分析できる | ※データ分析手法、分析例を具体的に明記すること |
| ③分析結果をロボットのサービスレベル向上に活用できる | ※ロボットのサービスレベル向上への分析結果の活用イメージを具体的に明記すること |

|  |
| --- |
| 【追加提案】都におけるロボット導入・活用シーンの追加提案　＜任意＞ |
| ※募集要領の「２（２）実証実験の内容」に掲げるア～カ以外に、都で有益と思われるロボット・導入活用シーンがあれば、今回の実証実験で検証する事項として追加提案を記載すること（ただし、追加提案の実施については、都と協議の上決定） |

|  |
| --- |
| ２．　安全管理能力 |
| （１）ロボットの安全上の仕様及び残留リスクとリスクへの対応策、実証実験を実施する施設や場所の状況に即したリスクアセスメント結果及び安全性の確保を目的とした対応策【ガイドライン4.2参照】 |
| ※別紙（様式自由、５ページ以内(\*2)）にて回答可(\*2)別紙のページ数は企画提案書の上限20ページには含めない |
| （２）安全確保上の必要があるときは、一定の年齢、身長、体重又は技能等を備えた者を被験者（利用者）として制限　　【ガイドライン4.3参照】 |
| ※制限を設ける場合の被験者（利用者）の条件、各条件の理由、実証実験中の周知等の対応方法等を明記すること |
| （３）事故発生時の対応手順【ガイドライン4.4参照】 |
| ※事故が発生した場合の対応手順を具体的に明記すること |
| （４）事故を避けるために必要かつ十分な安全上の情報の広報方法【ガイドライン4.5参照】 |
| ※安全上の情報を整理し、各情報の広報方法（看板設置、文書の配布、配置人員による口頭説明等）を明記すること |

|  |
| --- |
| ３．　事業の遂行能力 |
| （１）実施スケジュール |
| ※事前調整・実証実験実施・検証の各作業を具体化し、各作業の依存関係や所要期間等も含めて明記すること |
| （２）実施体制 |
| ※責任者、担当者、現場責任者、常駐する運用保守要員、緊急連絡先など含めて明記すること |

|  |
| --- |
| （３）取組状況 |
| ①　自社における多言語案内ロボット関連技術の研究・開発実績 |
|  |
| ②　今回実証実験するロボットのこれまでの検証実績及び成果（社内・社外の実証実験） |
|  |
| ③　今回実証実験するロボットの製品化・社会実装に向けた将来ビジョン（ロードマップ等） |
|  |